下関北高校だより

（令和４年１月２５日発行）

山口県立下関北高等学校
〒759-5511　下関市豊北町滝部 1003 番地
TEL(083)782-0023　FAX(083)782-0183
高校生活の様子は下関北高校ＨＰでも紹介しています。
http://www.shimonosekikita-h.ysn21.jp

■　ハロかぼランタンづくり研修会

１０月２５日（月）に（有）司ガーデンの代表取締役で関の花振興協議会の中司武敏さんを講師としてお迎えし、「ハロかぼランタンづくり研修会」を実施しました。研修会には本校のＪＲＣ部、総合文化部の２２名が参加しました。

研修会では、最初に中司さんから、なぜ、今、豊北町でハロウィンかぼちゃのランタンづくりに力を入れているのか、ハロウィンの起源、かぼちゃの種類、かぼちゃを使った楽しみ方や現在の取組、そしてランタンづくりの手順とポイントについて講習を受けました。また今年度は、下関市でのハロウィンイベントの発展に向けて、新たに「クジラの街下関」のクジラとのコラボでＰＲ力をアップする計画を進めており、クジラのロウソクによるハロウィンキャンドル、ＳＤＧｓを意識したクジラの肥料によるカボチャ花壇（イベント終了後）などの取組を行う予定であると説明がありました。

講習のあとにハロウィン用のかぼちゃを使ってランタンを製作しました。ランタンづくりマイスターの資格を持つ２・３年生は、手際よくランタンを完成させていきました。１年生は初めてランタンを作りましたが、先輩に作り方を教えてもらいながら、かぼちゃに油性ペンで下書きをし、引廻しのこぎりやスプーンを使って思い思いのランタンを完成させました。

下関北高校では、高校生にできる地域貢献として、ハロウィンで使われる観賞用かぼちゃでランタンづくりを行う活動を続けています。これまで、豊北夏祭りや道の駅北浦街道ほうほく、近隣の小学校など、地域のイベントにも参加し、かぼちゃのランタンづくりのアシスタントとして協力させていただいています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動ができていませんが、コロナの影響がなくなれば、ランタンづくりマイスターとして、さまざまなイベントのお手伝いをさせていただきたいと考えています。

■　滝部駅ハロかぼ装飾プロジェクト

下関北高校では、地域社会の維持・発展に貢献できる人材の育成を図るとともに、高校生ができる地域貢献活動を積極的に行っています。

滝部駅からの通学路に賑わいを取り戻すためのプロジェクトの一環として、高校生が通学の拠点としてお世話になっている滝部駅にハロウィンの装飾を行う「滝部駅ハロかぼ装飾プロジェクト」を実施しました。

制作は総合文化部が中心になって行い、麻ひもを使ったハロかぼを作成し、クリスマスで使用するツリーにハロウィンの装飾を施し、１０月２８日（木）に滝部駅舎に設置しました。今後も「滝部駅クリスマス装飾プロジェクト」「豊北総合支所門松設置プロジェクト」などを予定しています。

■　つのしまハロかぼ夢フェスタでライトアップ

角島灯台、角島灯台記念館（旧官舎）が国の重要文化財に指定され、令和３年１２月に１周年を迎えます。下関市はその記念として、灯台記念日（１１月１日）にあわせ、角島灯台公園周辺において、下関北高校と連携して「灯（あかり）」のイベントを実施し、観光振興、地域振興につなげるとともに、地域団体の協力を得て、にぎわいを創出する「つのしまハロかぼ夢フェスタ」を１０月３１日（日）、１１月１日（月）に開催しました。

この２日間、下関北高校は下関市役所豊北総合支所や地元の花卉栽培農家の（有）司ガーデンと連携し、ハロウィンかぼちゃのランタンの展示やライトアップ、麻ひもを使ってハロウィンかぼちゃに見立てたオブジェで装飾した「かぼタワー」を設置しました。

１０月２５日（月）から１週間、本校において、ＪＲＣ部と総合文化部の１年生から３年生までの生徒２８人が総力を結集して、（有）司ガーデンの中司武敏さんが生産された１００個のハロウィン用の観賞用かぼちゃでランタンを作りました。１０月２９日（金）の放課後にＪＲＣ部員が「ハロかぼランタン」の飾りつけを、１０月３１日（日）の午前中に総合文化部員で「かぼタワー」の装飾を行いました。かぼちゃのランタンライトを入れ、イルミネーションとともに点灯し、ライトアップもされて、幻想的で美しい光景が広がりました。

地方創生★政策アイデアコンテスト２０１８で、本校の生徒が提案した「ハロウィンかぼちゃで交流振興・生産振興～角島大橋ハロかぼランタンライトアップ大作戦～」が、最優秀の地方創生担当大臣賞をいただきました。角島大橋の欄干に、かぼちゃのランタンを取り付けてのライトアップは、交通の安全面から実現できていませんが、地域の皆さんのご協力もあり、生徒のアイデアを生かす形でハロウィンかぼちゃのライトアップを実現でき、今年で４年目を迎えています。生徒はもとより学校関係者も大変うれしく思っています。

■　進路ガイダンスを実施しました。

１１月２日（火）の６限目と７限目に、１・２年生を対象とした進路ガイダンスを実施しました。

進路ガイダンスでは、進路意識の醸成と進路選択・検討のための情報収集を目的として、山口県や福岡県の大学・短大・専門学校など計２８の学校等から講師をお招きし、２４の会場に分かれて各学校等の説明をしていただきました。

１・２年生は、２４の会場から二つの会場を選び、６限目と７限目に各会場で説明を受けました。講師の方からは、学部学科やコースで学ぶことができる内容や取得できる資格、各学校のセールスポイント、入学試験の種類や試験内容、そして卒業後の就職先などについて詳しく説明をしていただき、生徒の皆さんは大変熱心に聞いていました。各講座の受講者数が少人数のため、充実したガイダンスとなりました。

現在、３年生の中には推薦入試やＡＯ入試を受けている人もいます。２年生も１年後には同じ状況になることから、自分の進路についてしっかり考え、目標を定めて本格的に努力する時期に来ています。また、１年生についても、将来の夢や目標を考え、今できる努力を着実に行うことが極めて重要です。この度のガイダンスをきっかけに、皆さん一人ひとりが夢の実現に向けての努力を始められることを期待しています。

■　「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室。」を実施しました。

１１月４日（木）７限、「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室。」を実施しました。青少年の薬物による被害の実態を把握し、その害悪について学ぶことを目的に、毎年実施しています。

前半は生徒保健委員・風紀委員及び教員による薬物理解の発表と寸劇を実施しました。また、総合文化部による薬物乱用防止のポスターによる発表展示も行いました。

最初に水嶋希空さん、渡邊碧さんが薬物の種類と作用についての説明をパワーポイントで行い、その後、総勢３０名による薬物乱用防止を訴える寸劇を行いました。生徒も教員も真剣に寸劇に取り組み、全校生徒が薬物乱用の恐ろしさを実感できる寸劇となりました。

後半は学校薬剤師の久保卓雄先生を講師にお招きし、薬物乱用防止に向けての講話を実施しました。薬物乱用の影響は脳と体に影響すること、本当の恐ろしさは強い依存性であること、薬物依存に特効薬はないこと、危険ドラッグの化学構造について等、薬物使用が及ぼす身体への悪影響などについて深く学びました。久保先生が最後に言われた「悪い誘いを断ることは悪いことではない」という言葉は生徒の心に残りました。講話の後に風紀委員長の久保田修佑斗さんが「薬物の怖さや危険性を改めて実感することができました。今日の講演をずっと忘れずにいたいと思います。」と謝辞を述べて教室が終了しました。

今日の教室をきっかけに、あらためて「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。」を心に刻んで欲しいと思います。

■　豊北きらきらこども園児とさつま芋のおやつ作り

地域探究「保育・福祉」グループは１１月１１日（木）４、５限に、きらきらこども園児と一緒にさつま芋のおやつ作りをしました。この日作ったのは、グループが丹精込めて育てたさつまいもを使ったおやきです。

高校生が園児を手伝いながらエプロンなどの着用や手洗いを済ませ、おやつ作りがスタート！園児と高校生がグループになり、やわらかくつぶしたさつまいもを丸めていきます。「どんな形にする？星形にしようか」と、楽しく交流しながら思い思いの形を作りました。卵を塗ってごまをふって、一緒に協力して仕上げました。

焼いている時間に、園児が自分の名前を書いてお土産用のカップに貼ります。全員がとても上手に名前を書けることに、高校生は驚いていました。楽しくお絵描きやおしゃべりをして交流している間に焼き上がりました。

出来上がったおやきを食べると、「おいしい！」と園児も高校生も笑顔で大満足でした。園児たちには可愛くラッピングしたおやつをお土産に家に持ち帰ってもらいました。

１０月にも下関市立こども園の訪問を実施しました。コロナ禍ではありますが、感染対策を徹底しながら「保育・福祉」グループは園児との交流を続けていきたいと思います。

■　はなしの伝統芸能「落語」

１１月１７日（水）の１、２限目に、山口県高等学校文化連盟の補助事業として、はなしの伝統芸能「落語」を開催しました。噺家の柳家禽太夫（やなぎや　きんだゆう）さんをお招きし、落語の基本的な説明を受けた後に、落語「転失気（てんしき）」を鑑賞しました。しゃべっている向こう側が見えていること、扇子と手ぬぐいの２つだけを使うこと、おちが必要なこと、頭の中に情景を思い浮かべさせることなど落語とは何かを具体的な例を挙げながら、分かりやすく説明されました。その後の落語「転失気」では巧みな話術に魅了されて、ほとんどの生徒が落語を初めて観賞しましたが、落語の独特の世界に引き込まれていきました。終始笑いが絶えない中、日本の伝統芸能の奥深さを感じられるものとなりました。

柳家禽太夫さんは最後に、「落語などを鑑賞するときには、人の邪魔をしないことが決まり事である」とマナーについても話をされました。生徒にとって日本の伝統芸能にふれる良い機会となりました。